

中村耳鼻咽喉科だより

＝ 滲出性中耳炎 ＝

VOL.8

お子さんに多い

滲出性中耳炎

滲出性中耳炎は、小さなお子さんに多く見られる病気で3歳児では約30%程度みられるとも言われています。滲出性中耳炎の症状は軽い難聴程度ですが、放置すると言葉や知能の発達にも影響します。

耳が痛くないのに中耳炎？

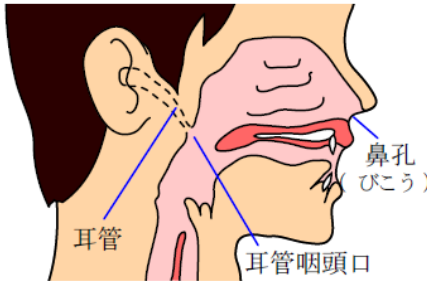
一般に中耳炎と聞くと耳が痛くなる、熱が出るなどが症状の「急性中耳炎」をイメージされますが中耳炎にも分類があり、滲出性中耳炎では痛みはなく、聞こえが悪くなるという症状が特徴です。

滲出性中耳炎の原因は？

滲出性中耳炎は急性中耳炎が治りきらなかったり、鼻炎や副鼻腔炎などの病気、それに伴う鼻すすりが原因となります。この鼻をすするという行為が症状の改善に大きく影響を及ぼします。

中耳と鼻の奥は耳管（左図参照）という管でつながっていますが、急性中耳炎や鼻炎があると耳管の近くの粘膜まで炎症を起こして腫れ、耳管が狭くなります。すると、中耳の換気が悪くなって内圧が下がり鼓膜がへこみます。さらに粘膜組織から染み出た液体が鼓膜の内側の中耳腔に溜まります。

●耳管とは



耳管は中耳とどの奥を結んでおり、中耳内の換気を行う。耳管ののど側の出口を「耳管咽頭口」といい、あくびをしたり、ものを飲み込んだときにだけ開く。

鼓膜の動きが悪くなると空気の振動（音）をとらえることができなくなるので、ますます聞こえが悪くなります。

●テレビに近づいて見る



テレビの音を大きくしたり、テレビの近くに寄って見ている。

●返事をしない



後ろから声をかけても、気づかない。名前を呼んでも、返事をしない。

●聞き間違いが多い



話しかけたときに、よく聞き返したり、聞き間違えたりする。

こんな症状ありませんか？
お子さんの様子に注意して早く気付いてあげましょう。

◆検査

鼓膜の動きを見る「チンパノメリー」という検査をします。また難聴の程度を調べるには「純音聴力検査」を行います。

診察では鼓膜の状態を診ます。滲出性中耳炎では鼓膜がへこんで見えたり、鼓膜の内側に液体が溜まっているのが透けて見えます。

◆治療

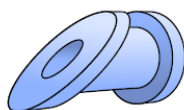
耳管から中耳に空気を送る「耳管通気」を行い、滲出液が耳管から流れ出るよう促します。こうした治療を行っても滲出液が除去されない場合は、鼓膜を小さく切開して、滲出液を吸引します。

それでもよくならない場合は、鼓膜に小さな孔を開け、そこから中耳に「チューブ」とよばれる小さな管を挿入して留置し、滲出液の排出と中耳の換気を図ります。

滲出性中耳炎は、「副鼻腔炎」や「アレルギー性鼻炎」、「アデノイド増殖症」などから起こることがあるので、その場合は原因となる病気の治療も行います。

また、治療が不十分であると鼓膜がへこみ中耳腔の奥に癒着したり、真珠腫性中耳炎へ移行する場合もあるので、しっかりと治療を受けることが大切です。

●チューブ挿入留置術



局部麻酔のもとで、チューブを鼓膜に挿入する。チューブは中耳の気圧を調節し、滲出液が中耳に溜まるのを防ぐ。

アデノイド増殖症

アデノイドは、鼻腔の奥の耳管の入り口（じかんいんとうこう耳管咽頭口）の近くにある器官（下図参照）で、肥大して大きくなった状態を「アデノイド増殖症」といいます。だいたい2〜3歳でアデノイドの増殖が始まり、5〜6歳ころに最も大きくなり、その後自然に小さくなっていきます。

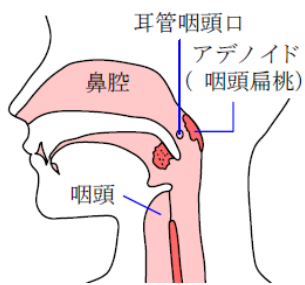
アデノイド増殖症があると鼻づまりが起こり、それに伴

っていびきや睡眠時の無呼吸が起こりやすくなります。

また耳管を塞がれて、滲出性中耳炎の原因となります。

治療は鼻炎に対する内服治療を行います。呼吸によって全身的な影響もきたす場合はアデノイド切除術が行われます。

●アデノイド



鼻腔の奥にあるのがアデノイド（咽頭扁桃）。アデノイドが大きくなると、耳管の開口部（耳管咽頭口）が塞がれて、空気が通りにくくなる。滲出性中耳炎の原因となることもある。

●予防のために

鼻を強くかみ過ぎると、その圧力で、鼻の細菌やウイルスが耳管から中耳へ送られます。そうすると急性中耳炎や滲出性中耳炎の原因にもなりますので、日頃から正しく鼻をかむ習慣を身につける事が大切です。